

議事 1

第七次前橋市総合計画（創生プラン） 令和7年度行政評価等について

1 第七次前橋市総合計画の進行管理（行政評価）

（１）目的

将来都市像に掲げた「新しい価値の創造都市・前橋」の実現に向けて、PDCAサイクルによる進行管理を行い、重点施策のもとで実施する事業（重点事業）の取組状況等を評価・検証するとともに、より高い成果を上げるための改善策を講じることにより、計画を着実に推進するもの。

（２）評価対象

令和６年度（2024年度）実施の51重点事業



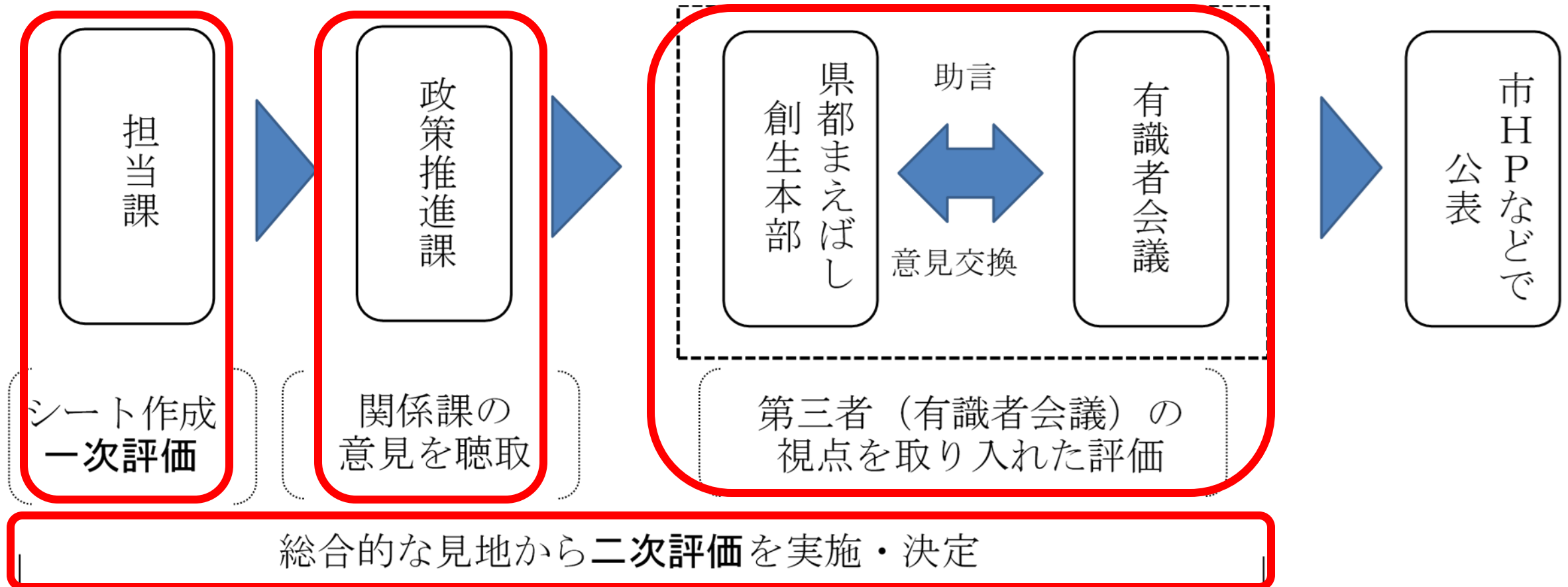
推進計画は、社会状況の変化等を考慮して3～4年ごとに見直し



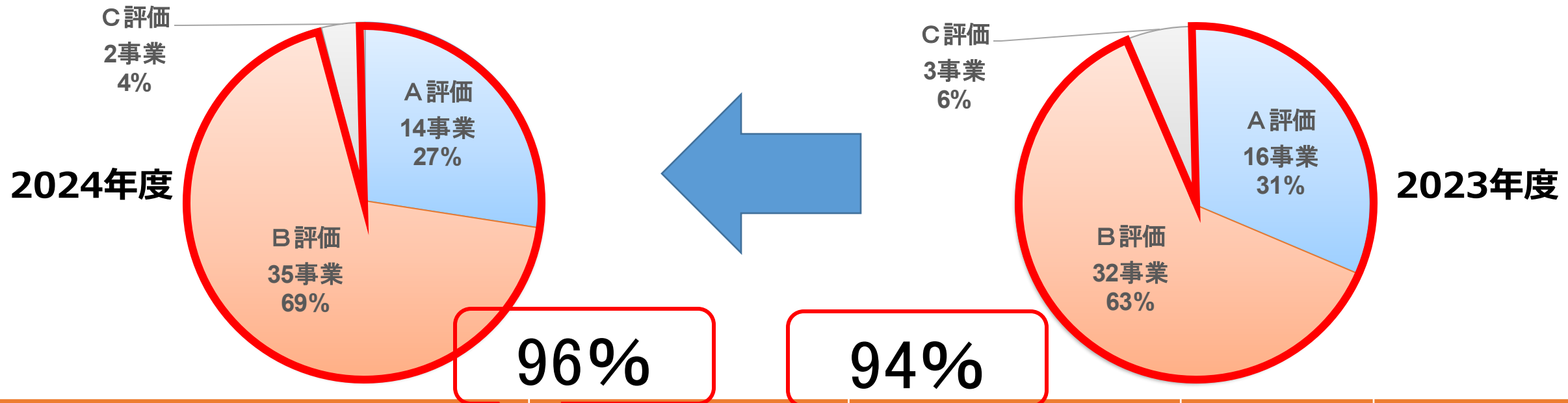
1 第七次前橋市総合計画の進行管理（行政評価）

（3）評価方法

成果指標の実績値と重点事業の取組状況、地域経営の3つの項目について以下の流れで総合的な見地からの評価・検証を実施。



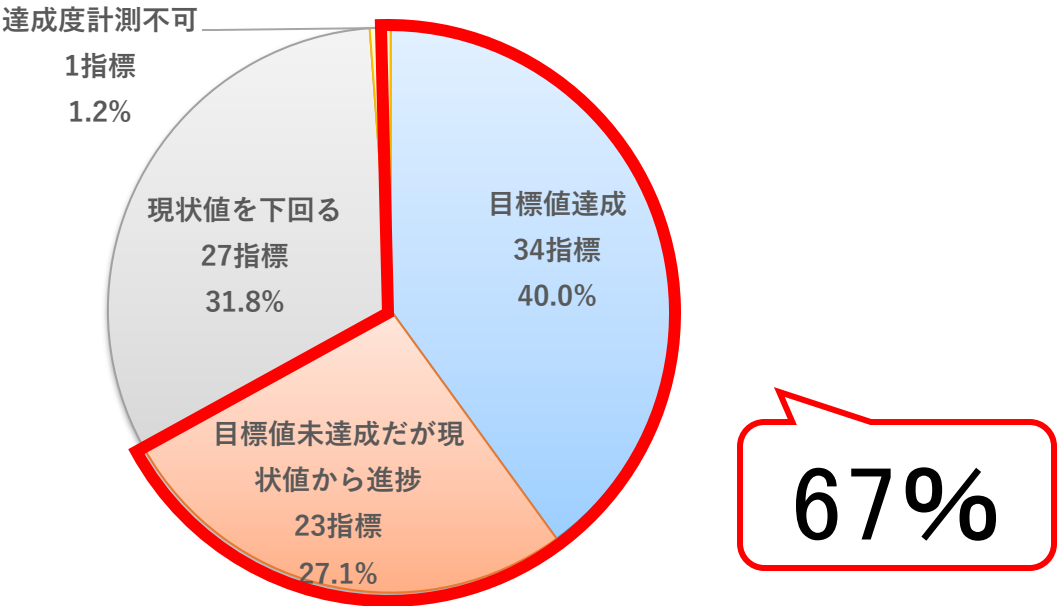
2 2024年度実施事業の評価結果



行政評価の結果	2024年度事業	2023年度事業	2022年度事業	2021年度事業
A評価(順調に進んでいる)	14事業 (27%)	16事業 (31%)	15事業 (29%)	9事業 (18%)
B評価(概ね順調に進んでいる)	35事業 (69%)	32事業 (63%)	30事業 (59%)	36事業 (70%)
C評価(少し遅れている)	2事業 (4%)	3事業 (6%)	6事業 (12%)	6事業 (12%)
D評価(遅れている)	0事業 (0%)	0事業 (0%)	0事業 (0%)	0事業 (0%)

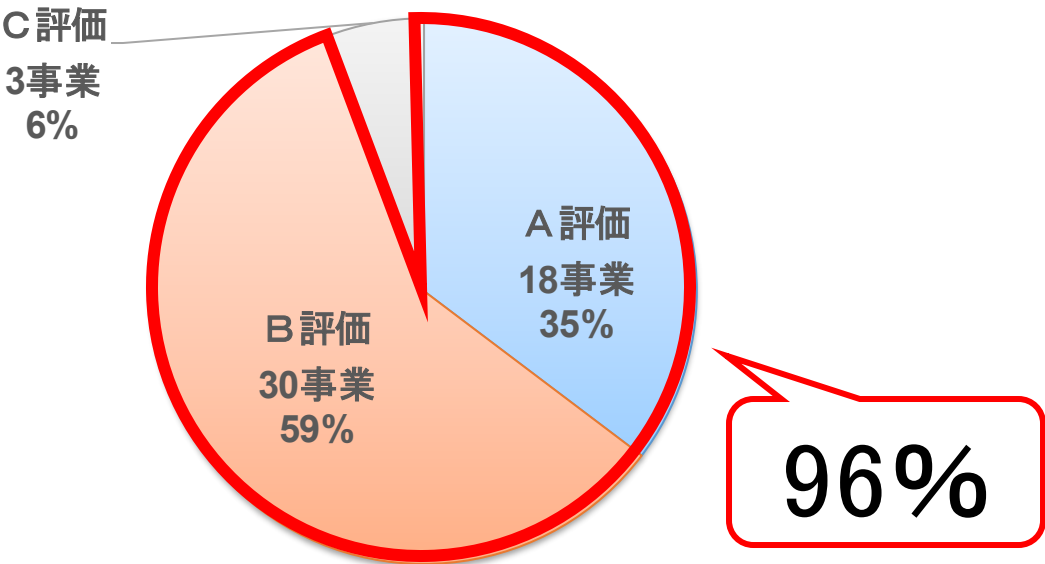
3 第2期推進計画の総括評価結果

■ 成果指標の達成度



成果指標の達成状況	
目標値（2024年）を達成しているもの	34指標（40.0%）
目標値（2024年）に届いていないが現状値（2019年）から取組が進んでいるもの	23指標（27.1%）
現状値（2019年）を下回っているもの（マイナス指標を除く）	27指標（31.8%）
実績値が計測できないもの	1指標（1.2%）
合計	85指標（100%）

■ 総括評価



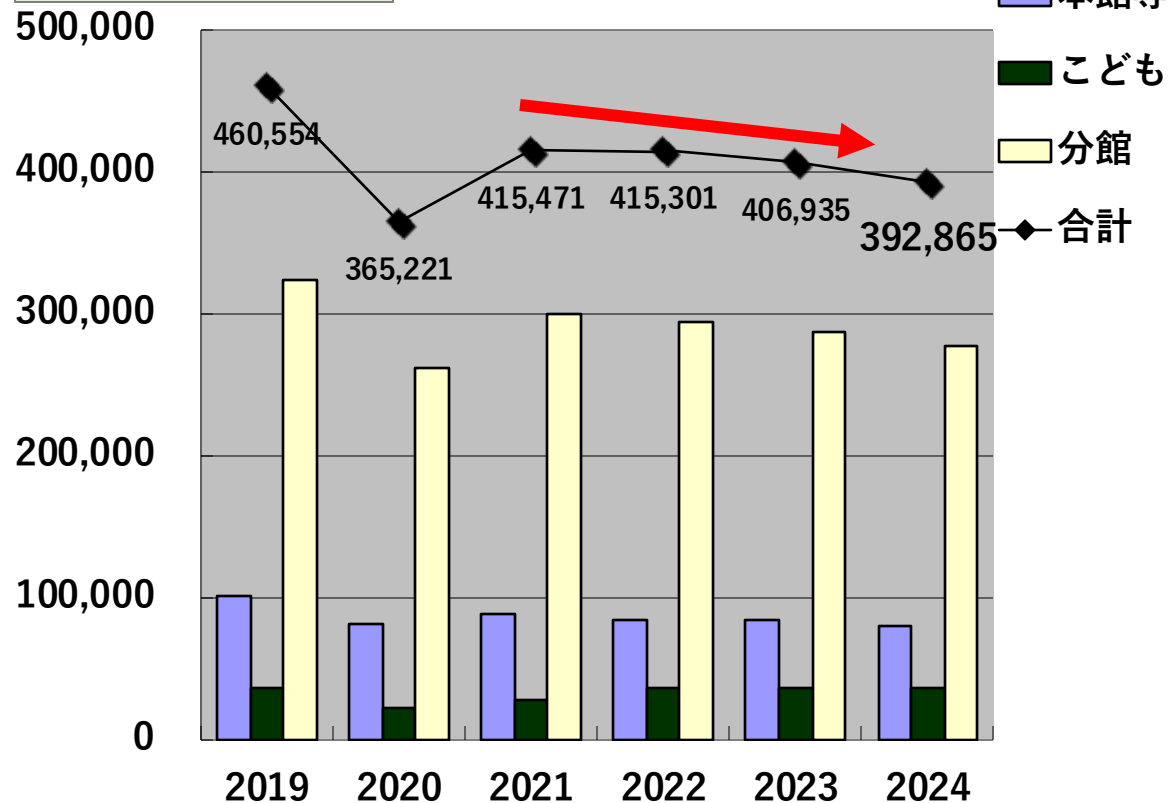
行政評価の結果	2021年度事業	2022年度事業	2023年度事業	2024年度事業	4年間の総括評価
A評価（順調に進んでいる）	9事業（17.6%）	15事業（29.4%）	16事業（31.4%）	14事業（27.4%）	18事業（35.3%）
B評価（概ね順調に進んでいる）	36事業（70.6%）	30事業（58.8%）	32事業（62.7%）	35事業（68.67%）	30事業（58.8%）
C評価（少し遅れている）	6事業（11.8%）	6事業（11.8%）	3事業（5.9%）	2事業（3.9%）	3事業（5.9%）
D評価（遅れている）	0事業（0%）	0事業（0%）	0事業（0%）	0事業（0%）	0事業（0%）

第1章 人をはぐくむまちづくり（教育・人づくり）

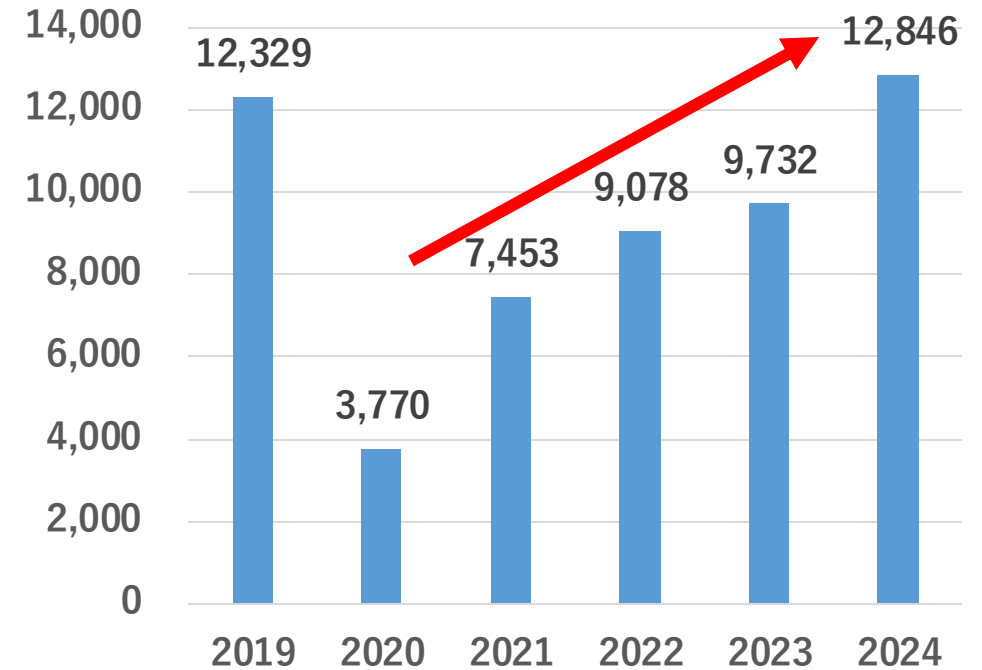
重点事業No.3 図書館の機能充実（評価：B）

■図書館の利用推移

貸出利用者数（人）



図書館自主イベントの参加人数



【新本館】 県立図書館 機能連携(仮称:未来型学習hub)
⇒ 「多様な学び」 「生涯学習」 の場に

貸出利用者は微減傾向、図書貸出以外の機能強化も推進していく

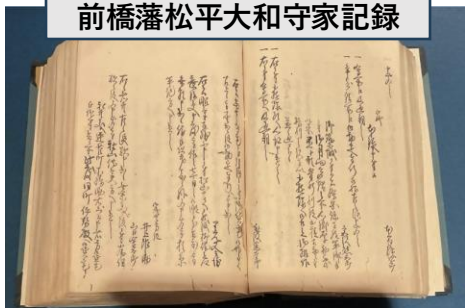
第1章 人をはぐくむまちづくり（教育・人づくり）

重点事業No.3 図書館の機能充実（評価：B）

■多彩なイベント運営

コレクション展2024・企画展

前橋藩松平大和守家記録



展示の様子



貴重な郷土資料などを展示 前期・後期・企画展合計1,160人が来場

まえばし図書館まつり

ビブリオバトル



読書の楽しさを共有

講演会



分野を越えて多くの連携展を開催

文学館企画展との連携



■高等学校連携

市内高校4校と19事業を展開
高校生が活躍する場を提供し
延べ720人が来場

前橋育英高等学校



吹奏楽部×ライブラリーコンサート

市立前橋高等学校



理科研究サークル×ワークショップ

勢多農林高等学校



ふれあい動物コーナー、野菜販売

■司書の活躍

専門職の能力を生かし、
本の魅力を伝える企画

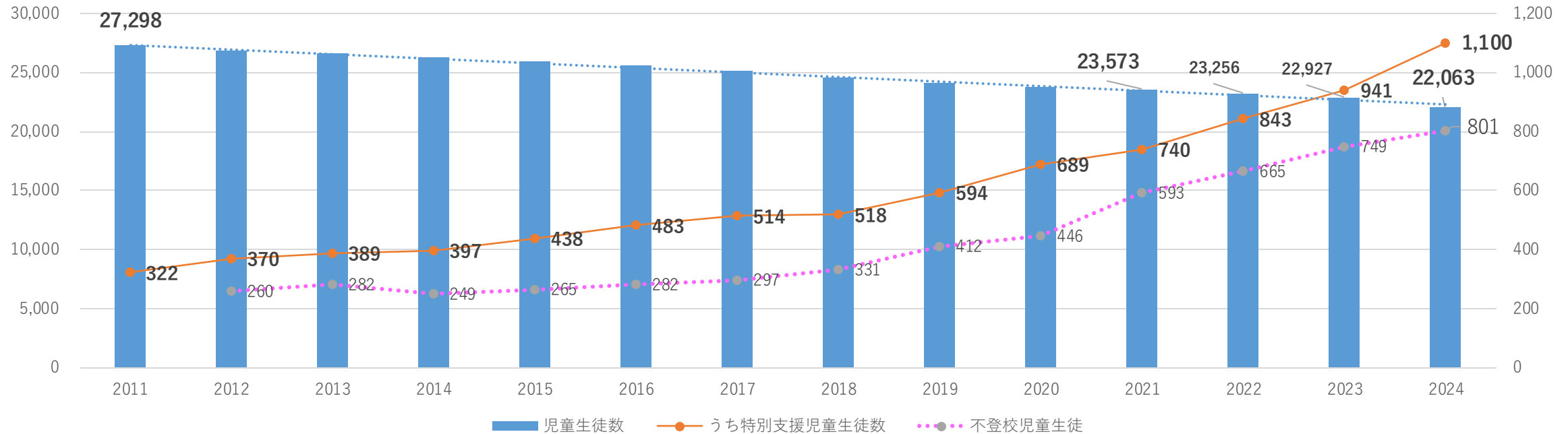


様々な分野と連携しながら、本との出会い・学びの魅力を伝えている

第1章 人をはぐくむまちづくり（教育・人づくり）

重点事業No.4 人間性を高める学校・園づくりの推進（評価：A）

■特別な支援を要する児童生徒は全体の4.9%、不登校児童生徒は3.6%



■医療的ケアが必要な児童生徒の推移

	2020	2021	2022	2023	2024	2025
対象児童（人）	1	1	2	7	10	9
看護師（人）	2	2	6	15	17	18
配置校（校）	1	1	2	6	9	8

特別な支援を要する児童生徒・不登校児童生徒は引き続き増加傾向

第1章 人をはぐくむまちづくり（教育・人づくり）

重点事業No.4 人間性を高める学校・園づくりの推進（評価：A）

多様な悩みに対する切れ目ない不登校支援を展開

教員、プラザ相談室、スクールカウンセラー、
スクールアシスタント、オープンドアサポーター

校内教育支援センター（今後）
（スペシャルサポートルーム）

教育支援教室
不登校支援施設交通費補助

学校生活で悩
みがある

教室にはいれ
ない

学校へは行け
ない

家から出られ
ない

NEW
まえばし
コネクト

不登校児童生徒オンライン支援「まえばしコネクト」

授業日の火曜、木曜、10～15時

- ・ホームルーム
- ・学びの時間
- ・ほっとタイム（面談）

教育プラザ支援員

GIGA端末

GoogleMeet

児童生徒

児童生徒

児童生徒

今後の不登校支援についての検討

学びの多様化学校

校内教育支援センター
（スペシャルサポートルーム：学校内の教室以外の学びの場）

【不登校の要因】

令和6年度「学校生活にやる気が出ない等の相談が
あった」が最多（小学校35.9%中学高29.6%）

令和元年度～令和5年度も「無気力・不安」が最多
※複数選択式、R5→R6で国の調査表現が変更された

背景要因は
ケースごとに
個別性が高い

共通的に生活リ
ズムの乱れが見
られることも

毎月各校で教育相談部会を開催
個別ケースについて継続的に対
応協議する体制を確保

インターネットやゲームなど
依存症予防の取組も進めている
（生活リズムの乱れ予防）

多くの対象児童生徒に相談指導を提供

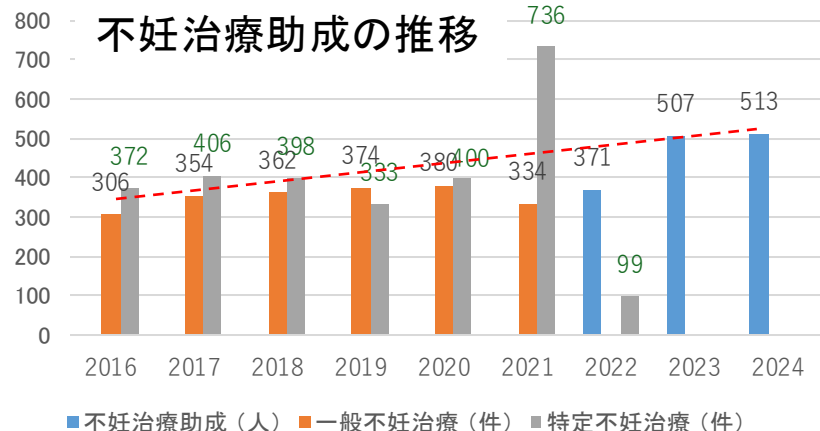
（R6前橋市小学校95%中学校97%、R3全国63.7%）

個別対応と予防的対応

今後も両輪で推進する必要性

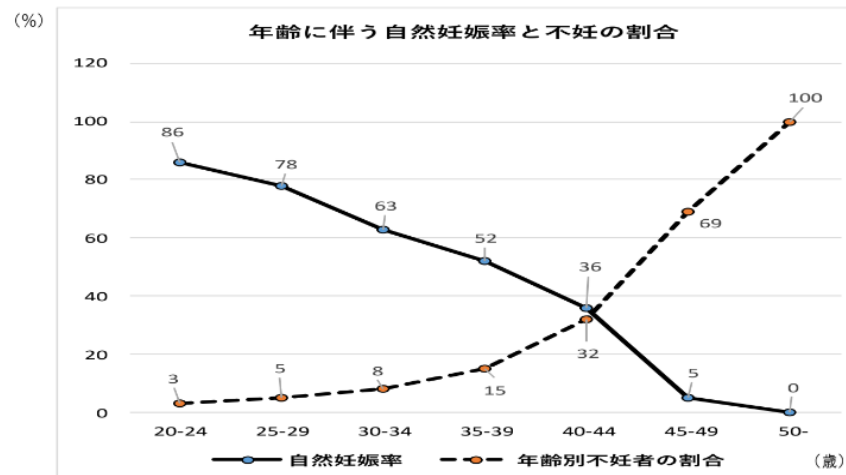
第2章 希望をかなえるまちづくり（結婚・出産・子育て）

重点事業No.10 妊娠・出産への支援（評価:B）



※R3.1国制度改正に伴い、特定不妊治療の要件緩和

※R4.4から不妊治療が保険適用になったことに伴い、医療費自己負担分の一部補助の創設



ライフプランシート抜粋

■プレコンセプションケアを実施

適切な時期に、性や健康に関する正しい知識を持ち、妊娠・出産を含めたライフデザインや将来の健康を考えて健康管理を促す取組



※国立成育医療研究センターHP引用(WHO引用・改変)



対象: 市新規採用職員や大学生など
(2024年度11回 参加者724人)

2024年度は、**中学校2校でも講話を実施(すこやか健康教室)**

プレコンセプションケアを知ること、妊娠・出産を含めたライフプランが描ける

第2章 希望をかなえるまちづくり（結婚・出産・子育て）

重点事業No.11 子育て世代への包括的な支援（評価:B）

■産後ケア事業

産後1年未満の母親と乳児が対象



ショートステイ （短期入所）	医療機関に宿泊してケアを受ける型
デイサービス （通所）	医療機関等を日帰りで利用しケアを受ける型
アウトリーチ （居宅訪問）	ご自宅で前橋市の助産師により 3 時間程度ケアを受ける型

■産後ケア利用の流れ

①こども支援課へ電話連絡

②申請書記入・提出

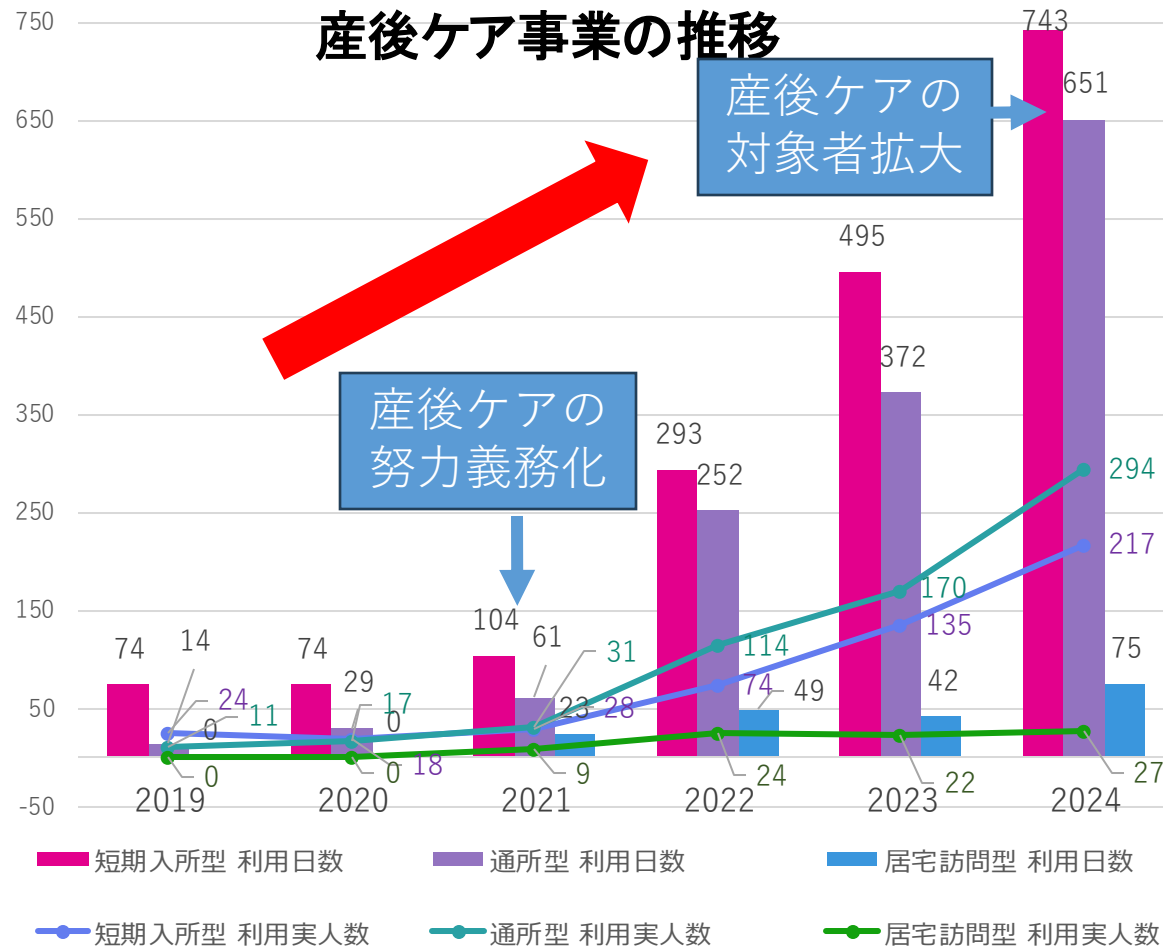
③市が日程調整

④実施機関でケアを受ける・料金支払

申請は、初回申請時のみ。
代理人による申請や・地区
担当による自宅訪問受領も
実施し、産後の母親の申請
負担を軽減。

**R7.9月からはLoGoフォー
ムによる申請受付も開始**

産後ケア事業の推移

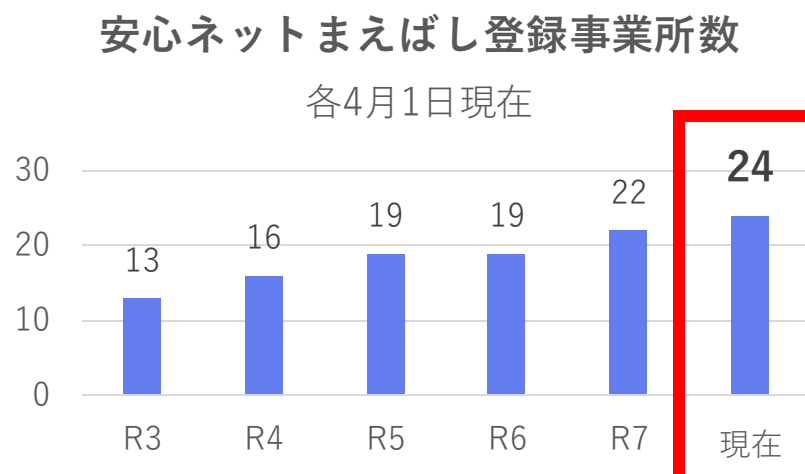
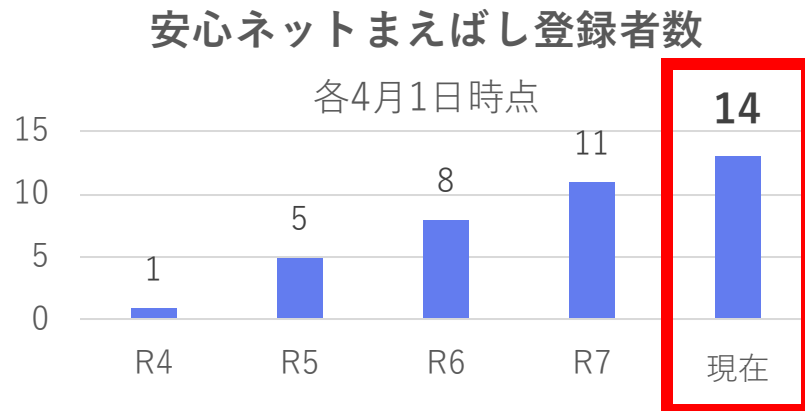


利用者増加に伴う、受入れ施設の拡充が課題

第3章 生涯活躍のまちづくり（健康・福祉）

重点事業No.17 障害者の活躍促進(評価:B)

「安心ネットまえばし」への期待と要望(部会・WG議事録より)



①相談

- ・ 支援者がいない世帯への情報共有や支援のきっかけづくり
- ・ 支援機関との接点がない人へのアウトリーチ
- ・ 事前登録要件の緩和と柔軟な対応 ⇒ R5 対応済み
- ・ 事業の理解促進と周知活動の強化

②緊急時の受入・対応

- ・ 事前登録制度により緊急時に迅速な対応が可能
- ・ 支援体制の柔軟性（連絡体制・支援者情報の把握）

③体験の機会・場

- ・ 将来の生活への備えとしての体験機会の提供
- ・ 一人暮らし体験、日中活動体験などの場の整備
- ・ 複数事業所の見学機会の創出

④専門的人材の確保・養成

- ・ 支援体制の整備に伴う人材の確保
- ・ 制度説明や相談対応に必要な専門性の向上

⑤地域の体制づくり

- ・ 登録事業所の促進
- ・ 支援体制の整備と情報共有の仕組みづくり

期待の声はあるものの
登録数は伸びていない

相談支援専門員向けの研修会を実施
認識の統一と事業推進を図る

第3章 生涯活躍のまちづくり（健康・福祉）

重点事業No.17 障害者の活躍促進(評価:B)

事業推進の難しさについての検討（安心ネット研修会ワークより）

参加者の意見

やるべきこと

得られる結果

事業の説明が難しく、理解されにくい
「まだ大丈夫」と思っている家庭が多く、支援の必要性を認識していない

それぞれの目線の
わかりやすい入口

安心ネットの
必要性を感じる

利用者・家族・支援者

親（特に高齢の親）が将来の話を避ける、否定的な反応を示すことがある

一気に話を進めると拒否されることが多い・介護者のタイミングまち

親世代の価値観（措置時代の記憶）により支援を拒む傾向がある

時間や手間をかけ
関係性を築く

徐々に伝える
頼れる関係を
育てる

つながり・相談

サービス利用料の負担など、経済的な事情から支援を避ける傾向も

相談員自身のスキルアップや、地域でのケアを支える資源の再整理も必要

多職種での協働
人材育成・研修

複合的な課題
へのアプローチ
が可能になる

福祉・医療など

①継続的な目線合わせ

・利用者のメリット

・支援者のメリット

整理、共有していくことが重要

やっと

「親なき後」の生活を見据えた
「準備」を支援する体勢が整う

②5つの機能の推進

住みなれた前橋で、希望を尊重しながら安心して暮らしつづける

課題の背景や構造の理解を
促進しながら、
丁寧に事業推進していく

第4章 活気あふれるまちづくり（産業振興）

重点事業No. 2 1 市内事業者の事業継続支援（評価：B） No. 2 6 包括的な起業支援（評価：A）

起業家独立開業支援資金の融資実績

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
融資件数	44件	54件	65件	55件
融資承認金額	333,600千円	391,610千円	507,320千円	29,530千円

起業家独立開業支援資金の業種別利用者割合

割合	業種別割合の上位
小売・卸売業	22%
飲食・サービス業	17%
建設業	15%
医療・福祉	13%

創業後も「創業サポート総合制度」によるサポート

- 利子補給
- 保証料補助
- 中小企業診断士による経営コンサル

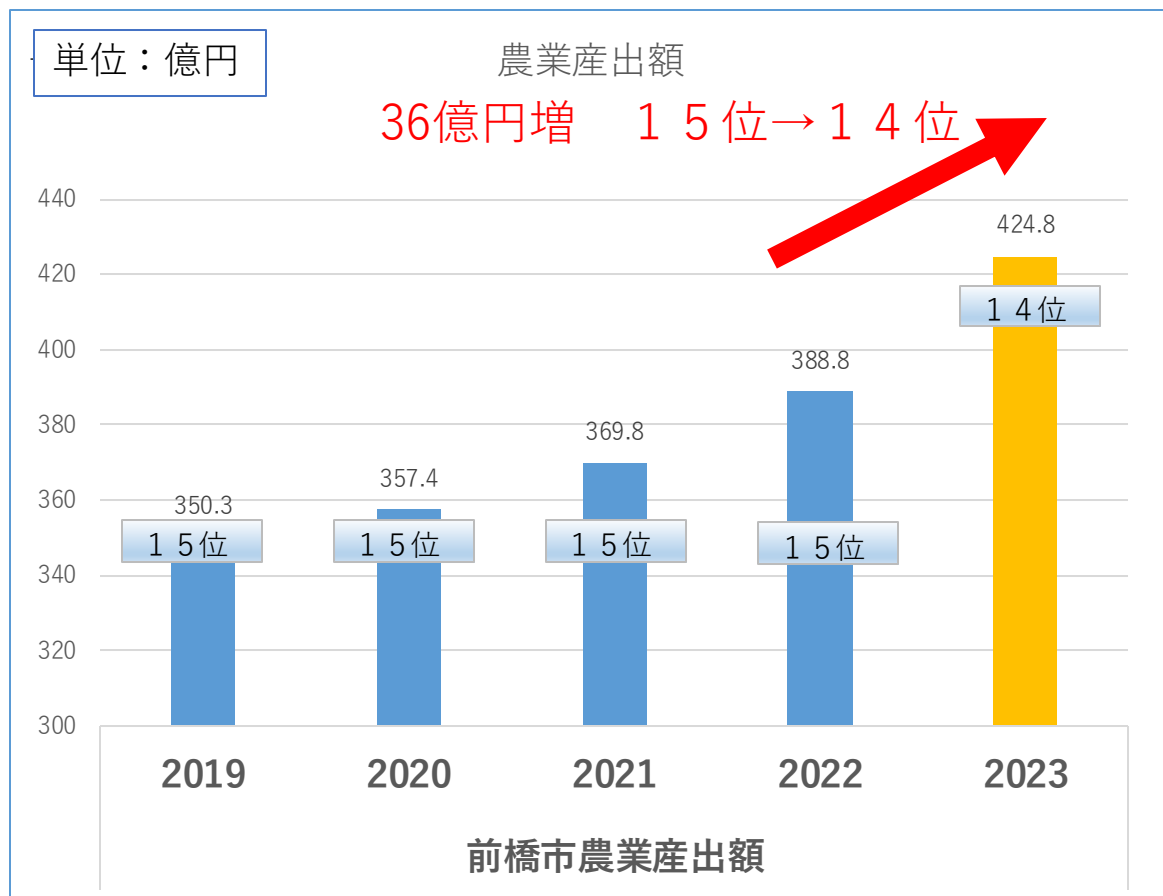
令和6年度末の事業継続率（2021年度から2023年度） **97.8%**

【参考】東京商工リサーチ調べによる全国的な3年間の企業の生存率 **88.1%**

創業後の継続的なサポートによる、高い事業継続率

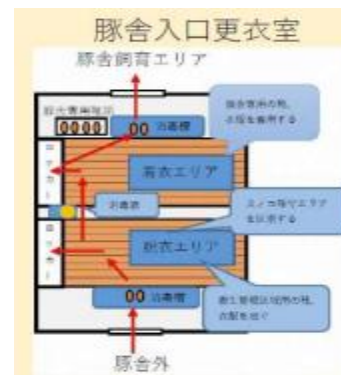
第4章 活気あふれるまちづくり（産業振興）

重点事業No.28 儲かる農業の実現（評価：B）



豚熱（CSF）等緊急対策事業

家畜防疫緊急対策事業



1農家あたり 100万円
※離乳豚舎等の前室、柵・ネット等、監視カメラの補助



防疫対策資材購入支援

1農家あたり 20万円 消石灰等消耗品費の補助

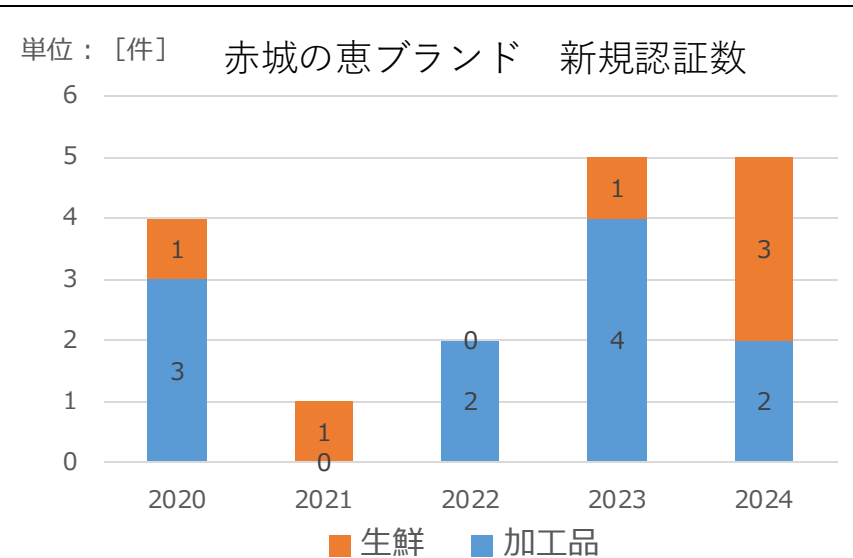
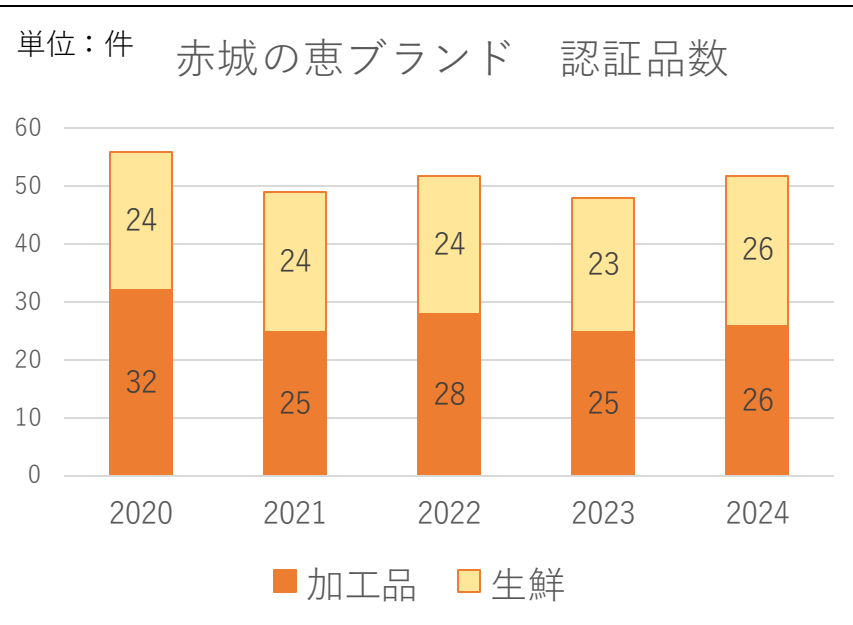
その他の防疫対策

養豚場周辺の緩衝帯整備・狩猟期捕獲奨励金の増額・有害鳥獣捕獲委託の強化、イノシシ等捕獲用わなの設置強化

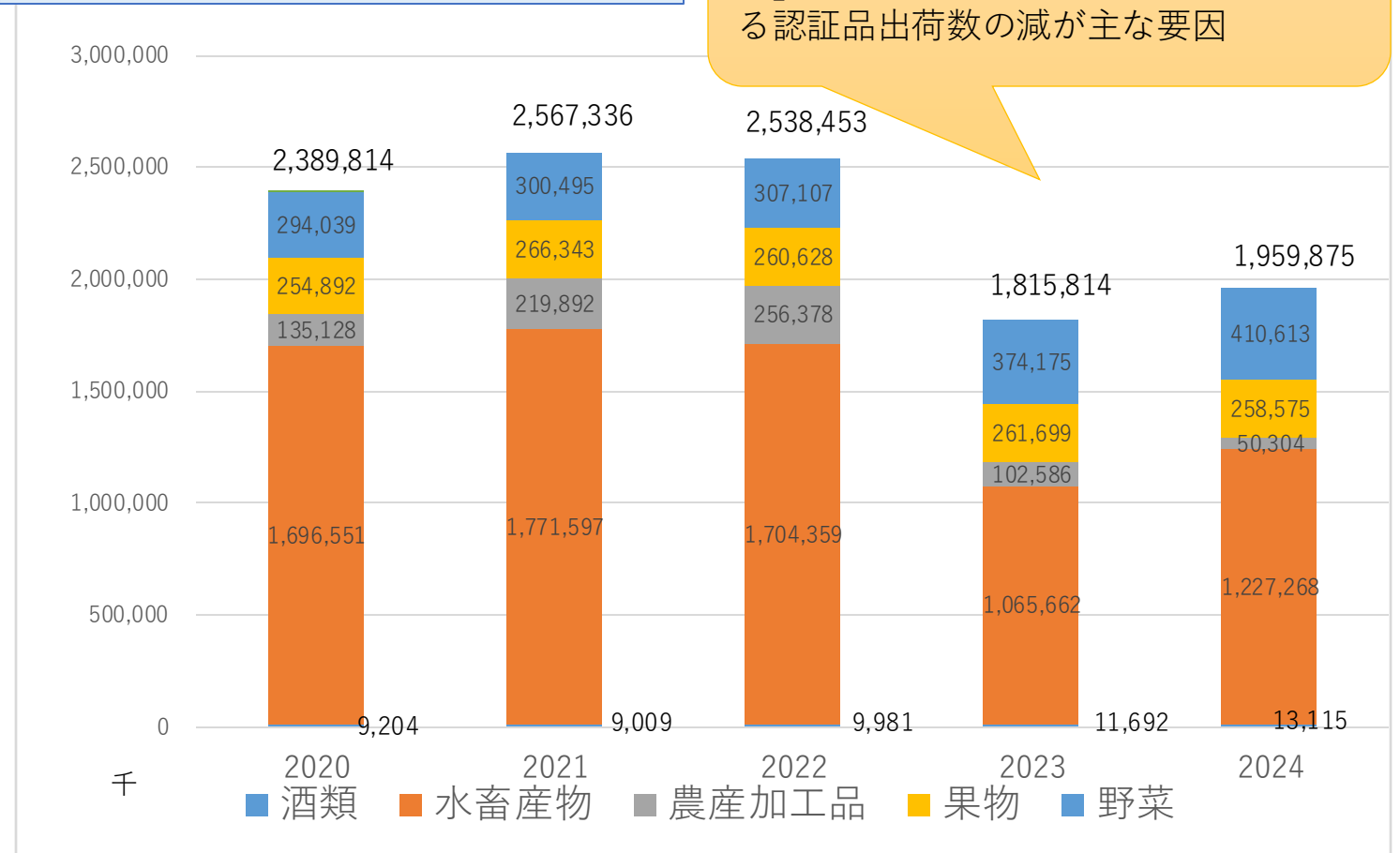
農業生産額は着実に増加。畜産農家守るため豚熱対策を強化

第4章 活気あふれるまちづくり（産業振興）

重点事業No.29 実効性の高い販売戦略の展開（評価：B）



■ 認証品販売額（単位千円）



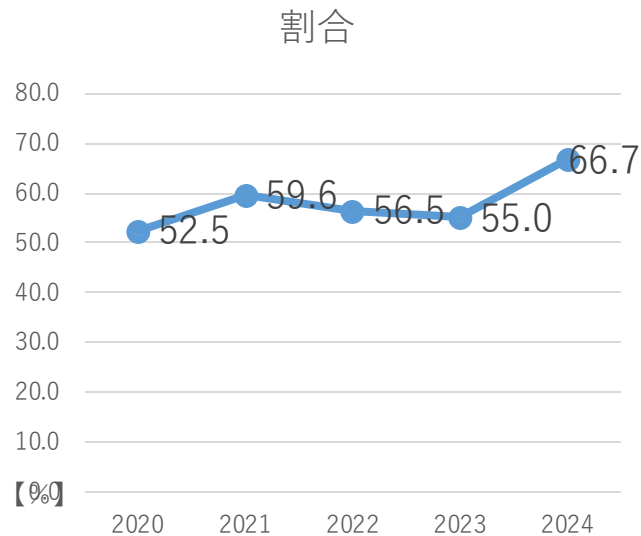
2023年度・2024年度の売上額について
上州牛の認証要件「オレイン酸測定器」の故障とオレイン酸測定結果による認証品出荷数の減が主な要因

■ 認証の辞退休止件数：年間2～3件程度
主な理由：気候変動による生産品目の変更・中止

第4章 活気あふれるまちづくり（産業振興）

重点事業No.29 実効性の高い販売戦略の展開（評価：B）

赤城の恵ブランドの認証により、販売額が増加した認証品の割合



■令和7年度の実施済

ザスパブライドマッチ

■6月28日

販売点数 1,043点

販売額 426,510円

来場者：6,397人



市役所マルシェ

■7月2日

販売点数 1,468点

販売額 260,930円



■令和7年度の実施予定

スズラン前橋特別販売会

■9月25日～28日

会場：スズラン前橋

赤城の恵の特別販売会を実施予定

（6事業者参加）

地方銀行フードセレクション（商談会）

■11月13日～14日

会場：東京ビックサイト

バイヤー限定の商談会に出店予定

（2事業者参加）

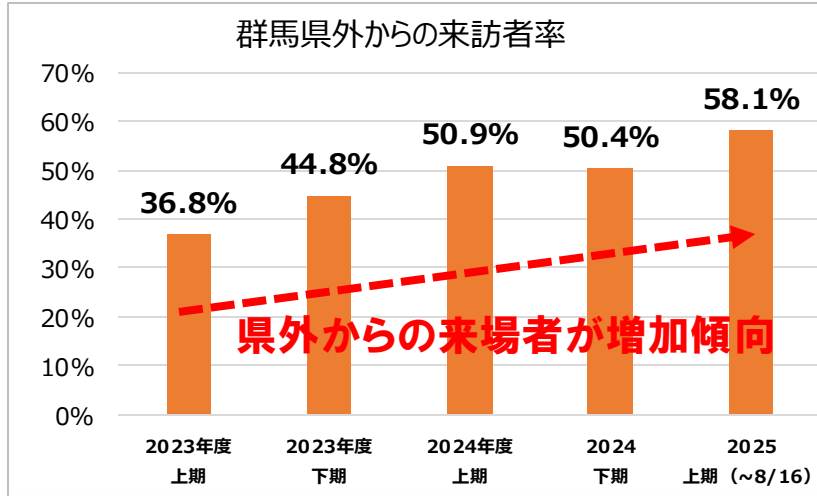
■認証利用者等へのヒアリングを行い、より付加価値のある認証制度とするため、制度の見直しを進めている。

各販促事業の実施による認証を受けるメリット実感してもらう。制度見直しも進めていく

第5章 魅力あふれるまちづくり（シティプロモーション）

重点事業No.30 赤城山ツーリズム・スローシティの推進（評価：A）

■2025年8月で累計来場者数1,000万人突破



■施設の魅力を最大限活用

2024年度

イベント開催数

341回

メディア掲載数

108回

民間道の駅大賞

総合1位

■県立赤城公園の活性化に向けた基本構想(R4群馬県)

①大沼キャンプフィールド	大沼湖畔のキャンプエリア（100サイト）、管理棟、サニタリー棟ほか
②赤城ビジターセンター	赤城公園エリア周遊の拠点施設、観光案内、ショップ、カフェほか

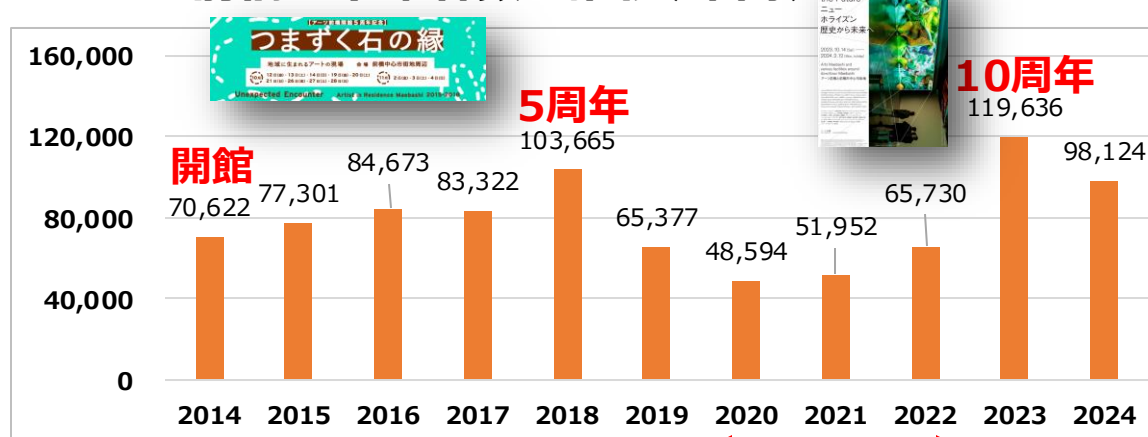


道の駅「まえばし赤城」と赤城山やスローシティエリアとの連携を推進していく

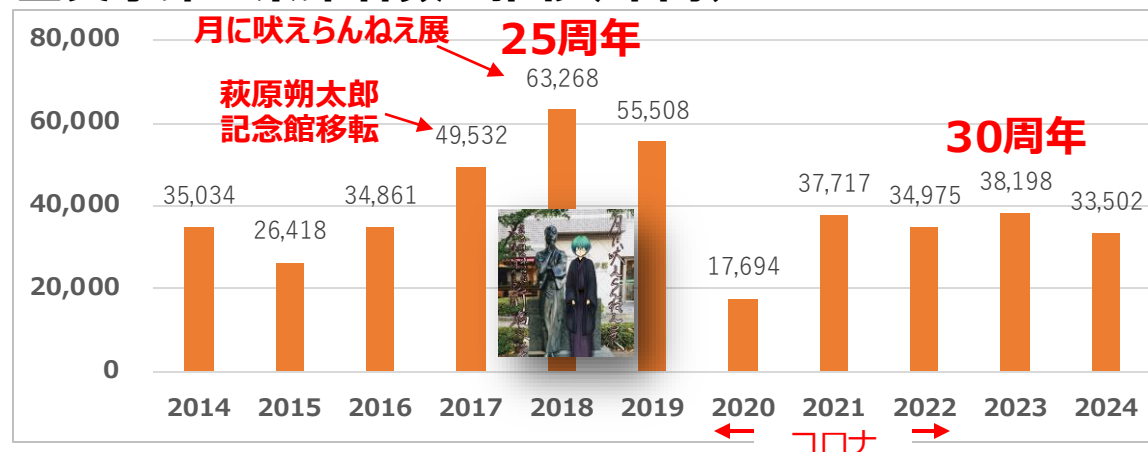
第5章 魅力あふれるまちづくり（シティプロモーション）

重点事業No.31 歴史・文化・芸術の活用（評価：B）

■アーツ前橋の来館者数の推移（年間）



■文学館の来館者数の推移（年間）



来館数はコロナ後回復傾向
安定した来館者数の継続

■前橋国際芸術祭2026年9月開幕



2016年に策定したまちづくりビジョンの10周年を契機に2年に1度のビエンナーレが開幕。官民連携により文化と芸術の機運が高まる。

市民が主役となり、アーティストとともに街を育て未来を描いていく。

■前橋国際芸術祭と前橋BOOKFESの隔年開催



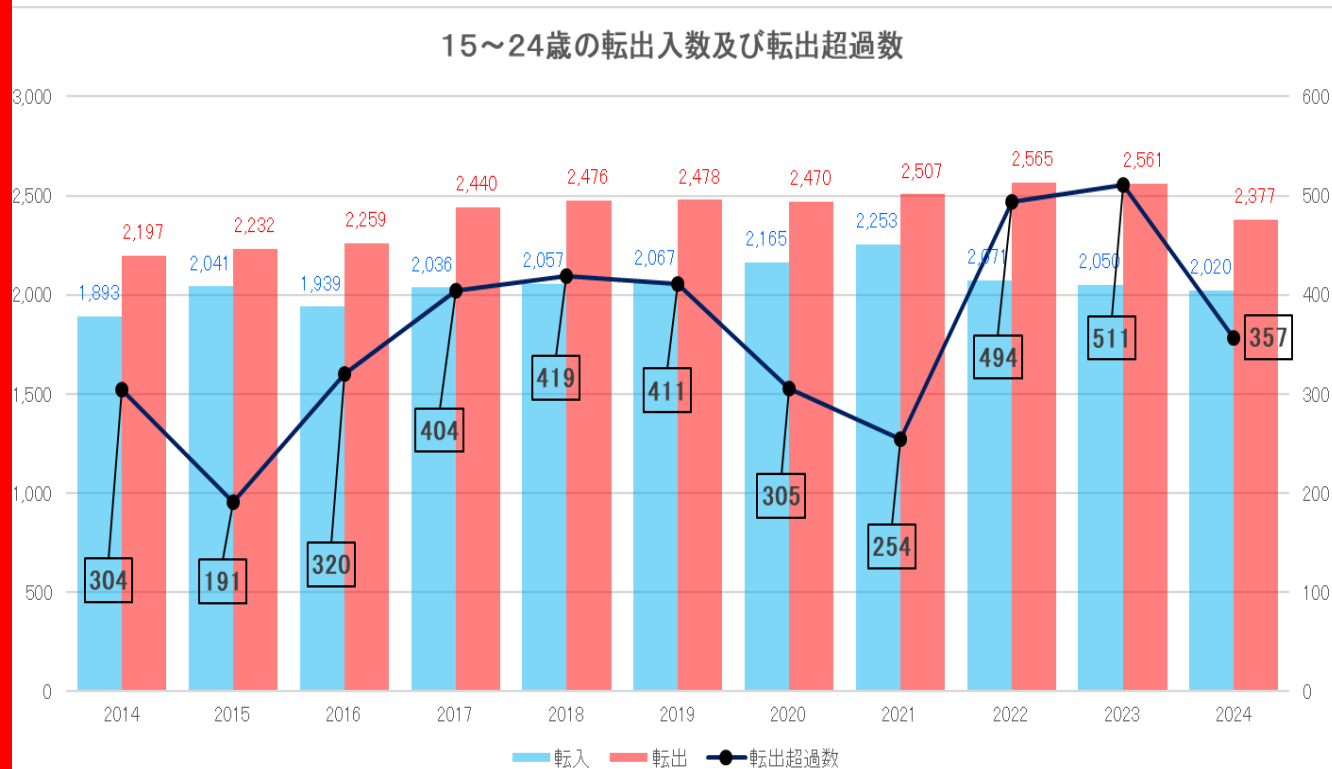
市民とともに文化芸術の機運を高めていく

第5章 魅力あふれるまちづくり（シティプロモーション）

重点事業No.34 若者の定着促進（評価：B）

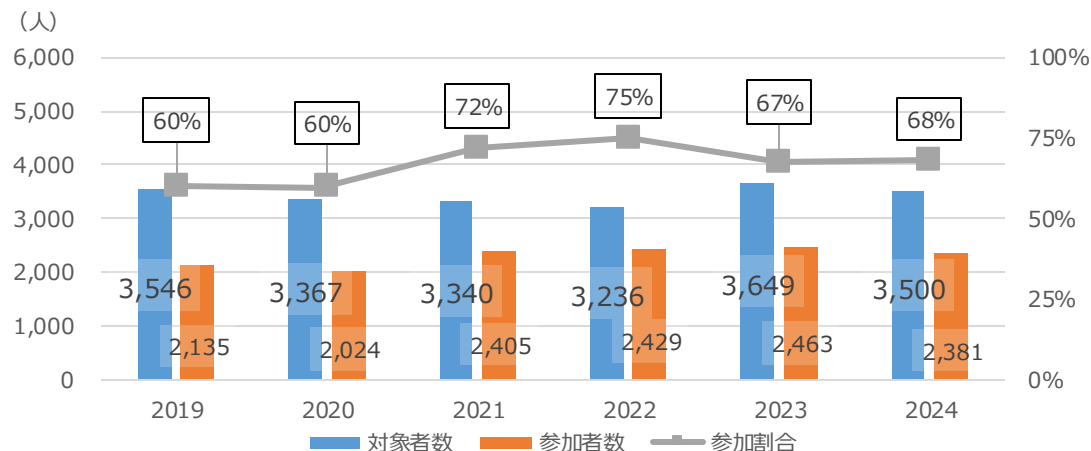
■15～29歳の転入出状況

転出数及び転入数の推移



■若者との接点の現状

はたちのつどい参加者数



高校生学習室登録者及び利用者数

登録者数	利用者数
2,344人	34,053人

【学校別登録状況（人）】

- 県立前橋女子高校：598
- 県立中央中等教育学校：118
- 県立前橋商業高校：95
- 市立前橋高校：91
- 県立前橋高校：357
- 前橋育英高校：110
- 県立高崎女子高校：92
- 県立前橋東高校：85
- 県立前橋南高校：121
- その他58校：677

転出超過数は一時的に抑制、若者の交流や継続して繋がる機会創出が必要

第5章 魅力あふれるまちづくり（シティプロモーション）

重点事業No.35 外国人への理解促進・共生推進（評価：B）

■在住外国人向けのごみ出しルールの周知



ごみ分別アプリさんあーる

- ▶ダウンロード数：45,236件（令和7年7月末現在）
- ▶うち日本語以外の言語設定登録者数：3,325件

英語	中国語	韓国語	ポルトガル	ベトナム	ネパール	インドネシア
1,780	324	26	295	665	2	233

イベントや日本語学校の入学説明会の場でごみの分け方や出し方について多文化共生ごみ袋を配付して周知を実施



多文化共生ごみ袋

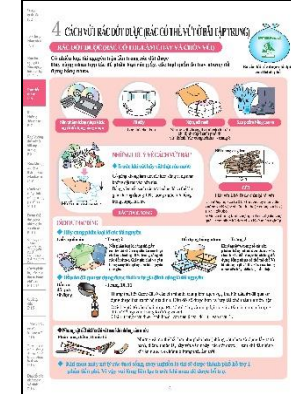


日本語学校での周知



イベントでの周知

■案内の多言語化



ごみ分別ガイドブック（外国語版）

令和6年8月よりインドネシア語を追加して現在7か国語対応

■転入外国人向けのパフレット作成を開始

年々増加する外国人に対して転入時点で配布するパフレットの作成を開始

パフレットは、これまで日本人向けの案内しかなかった分野の情報も含めて一元的に情報を集約する予定で、生活習慣などの暮らしの情報の掲載も検討。



伊勢崎市で導入しているパフレット

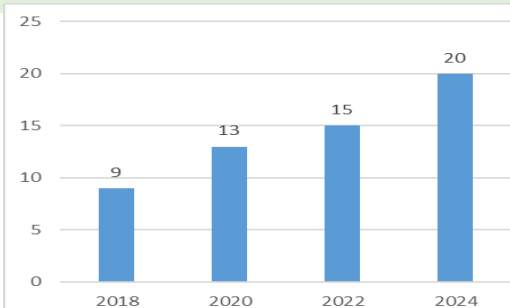
様々な手法で情報発信を実施。今後は転入時に注力した情報発信を検討中

第5章 魅力あふれるまちづくり（シティプロモーション）

重点事業No.36 民間との連携推進（評価：A）

■新たに5者と包括連携協定を締結し、合計20者

包括連携協定締結者の推移



2024年度締結先

- ①株式会社ベシニア
- ②株式会社カインズ
- ③イケア・ジャパン株式会社
- ④株式会社ジンズホールディングス
- ⑤生活協同組合コープぐんま

■2024年度の特徴的な取組

コンビニ駐車場内へデマンドバス停の設置 （セブンイレブン×交通政策課）

デマンドバスのバス停の見直しに併せて、市民ニーズの多かったコンビニ駐車場内に新たに7か所のバス停設置

セブンイレブン本部から市民ニーズへ応える旨、各フランチャイズオーナーに情報共有することで、調整がスムーズに



■更なる連携強化に向けた仕組みづくり

包括連携協定締結事業者向け

包括連携締結リスト共有
民間連携事例の共有

包括連携事業者同士の繋がり強化

民間事業者向け

行政課題の共有
新たな連携先の発掘

行政課題をオープンにしてパートナー募集

庁内向け

包括連携締結リスト
民間連携事例の共有

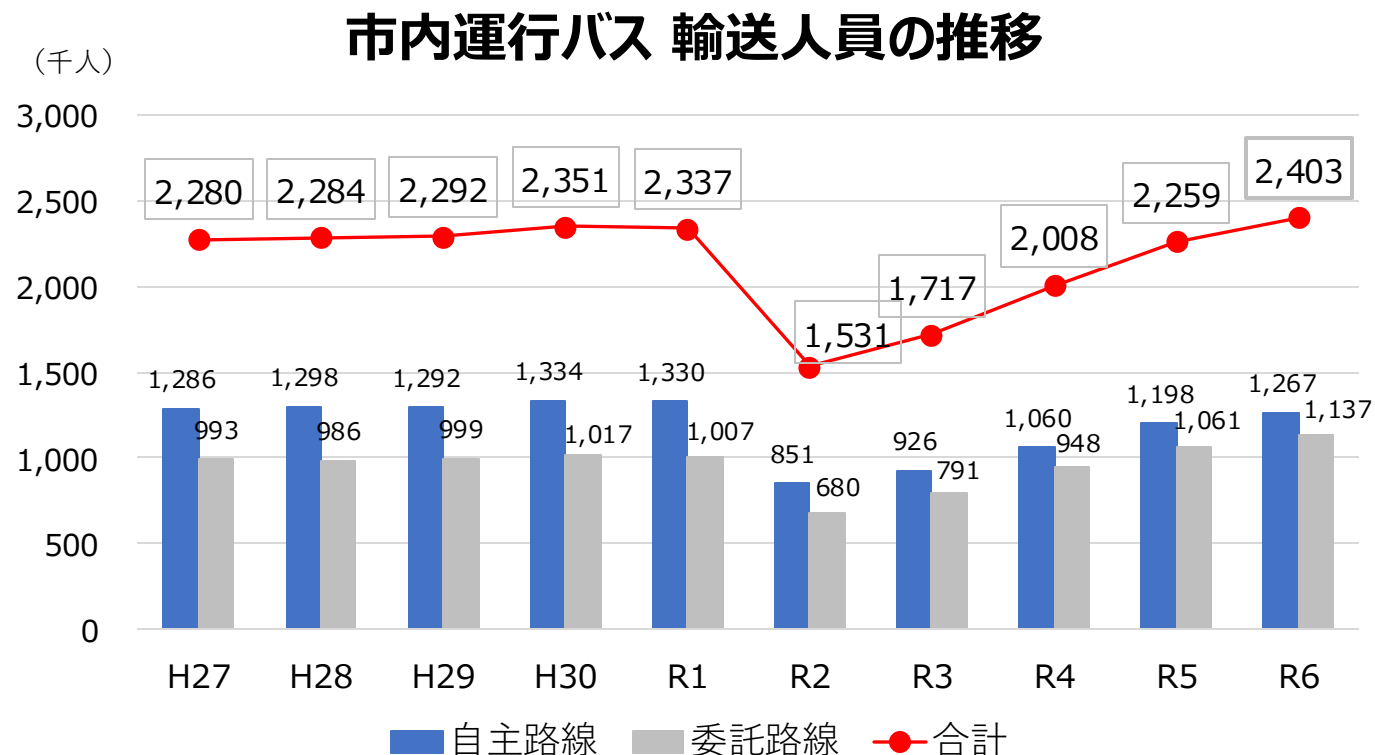
各所属発信の官民連携による課題解決

行政課題を共有し、新たな連携先の発掘や民間同士の連携促進強化

第6章 持続可能なまちづくり（都市基盤）

重点事業No.44 公共交通の利便性向上（評価：B）

■バス利用者はコロナ前を含めて過去10年で最大 バス利用者の推移



■主な取組

6 社合同採用説明会

- ・6社合同説明会を計28回開催
- ・13名をバス事業者が採用し、人材確保



年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代
人数	1	2	2	2	4	2

わかりやすいバス案内



バス待ち環境の改善（バス停改修）



バス利用者は過去10年で最大に、共同説明会で13人の採用へ繋がる

第6章 持続可能なまちづくり（都市基盤）

重点事業No.44 公共交通の利便性向上（評価：B）

■上毛電気鉄道100周年、ゆるキャラを公募

ジョモネコ

上電沿線市連絡協議会、
沿線市が連携して実施

市内外から554件の応募

1次選考、2次選考、
選定委員会による審査

→「ジョモネコ」をゆるキャラ
として選定



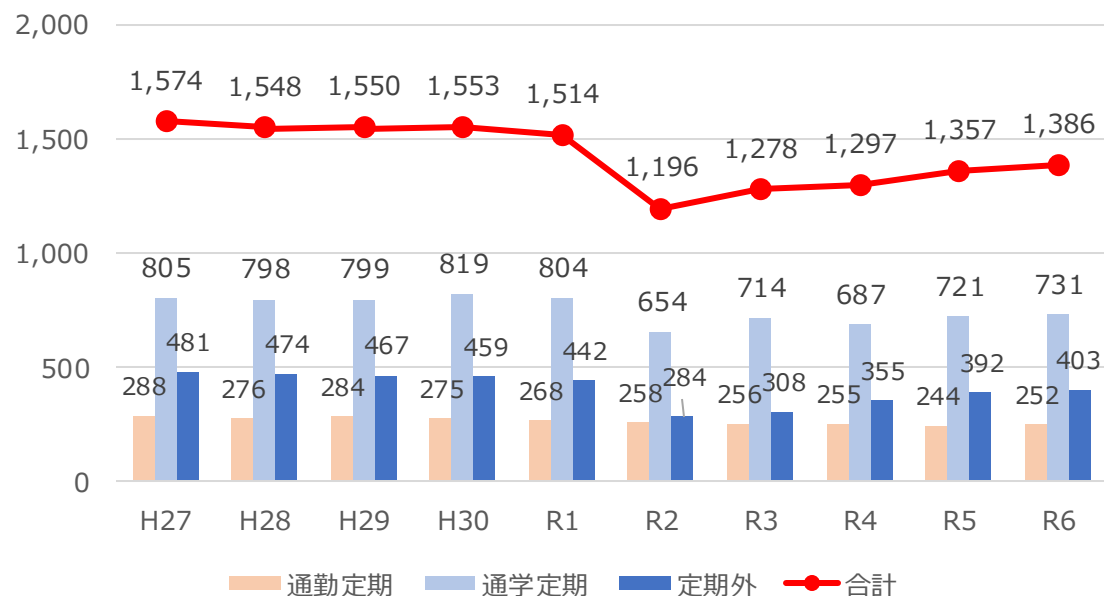
ジョモネコ
JOMONEKO



上毛電気鉄道利用者推移

(千人)

上毛電気鉄道 輸送人員推移



公共交通のリ・デザイン方針に基づき、
2025年度中の上毛電気鉄道への
ICカード(nolbe)導入を決定

沿線市や事業者との連携で上電をPR、今後、IC導入による利便性向上へ

第6章 持続可能なまちづくり（都市基盤）

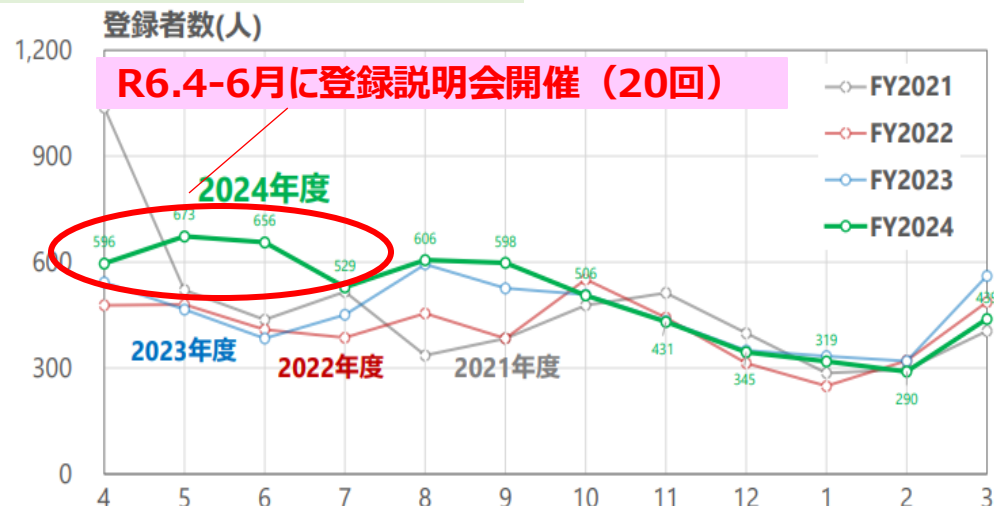
重点事業No.45 自転車のまち前橋の推進（評価：A）

第3期推進計画では目標値上方修正、事業再編

（38）公共交通の維持・充実



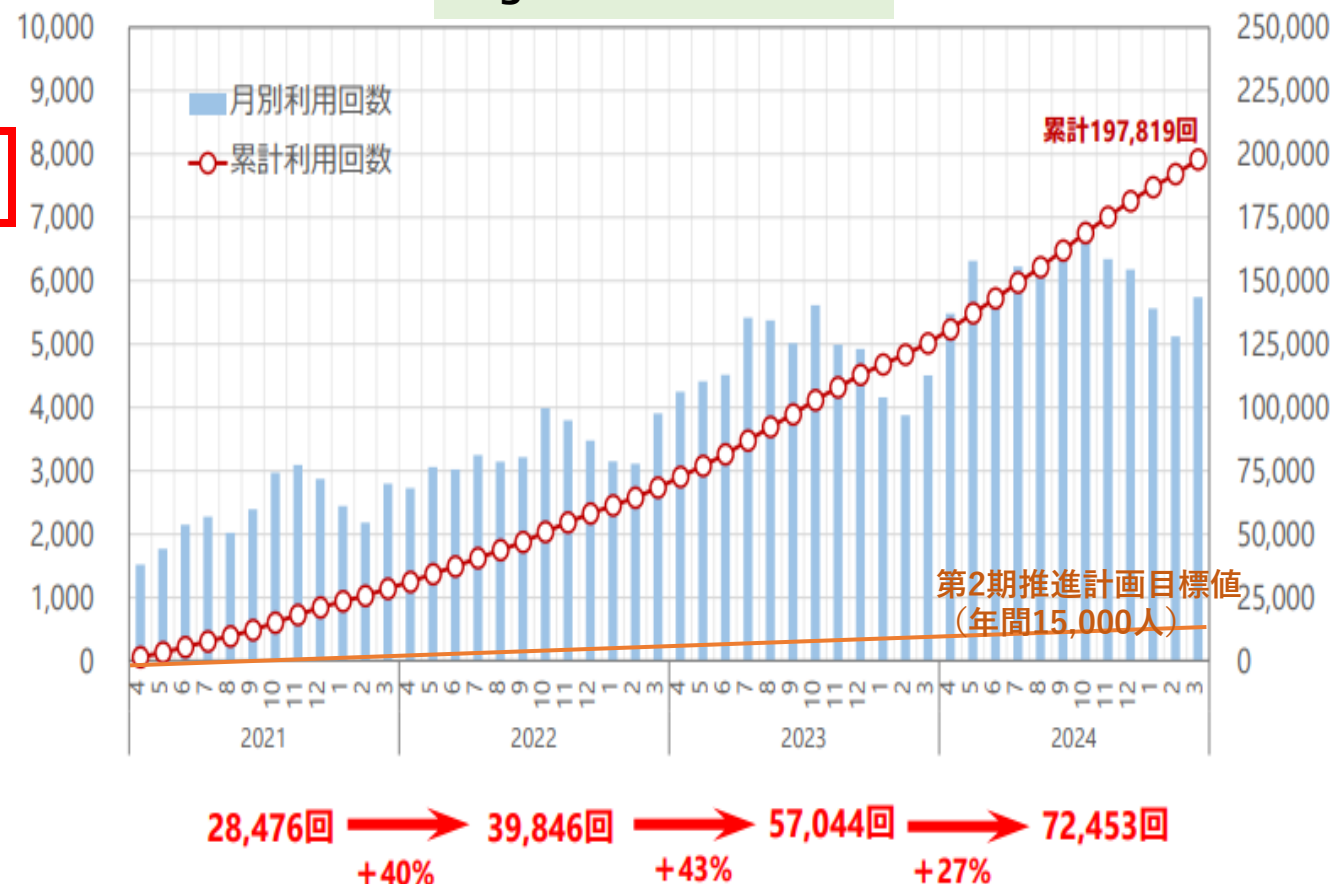
Cogbe月別登録者数の推移



利用回数 [回/月]

cogbe利用者の推移

累計利用回数 [回]



登録者及び利用回数は増加、登録・利用の多い春にPR施策を検討

令和7年度行政評価

二次評価がCの事業・理由

章	重点 No.	重点事業名	2024年度 実施事業 一次評価	2024年度 実施事業 二次評価	前年度 評価	C評価の理由
第4章	24	人材確保・ 育成支援	B	C	B	ジョブセンターまえばしの利用者やキャリアカウンセリング数は増加しているものの、市内企業への就職者数は2023年度から減少している。成果の改善に向けた事業の工夫が期待されるが、効果的な取組が見出せていないことからC評価とした。
	25	女性が活躍 しやすい環 境づくり	B	C	C	活動指標は目標値を達成できているが、成果指標である女性の正規雇用については2023年度から横ばいであり、目標値を達成できていない。成果の改善に向けた事業の工夫が期待されるが、効果的な取組が見出せていないことからC評価とした。

第4章 活気あふれるまちづくり（産業振興）

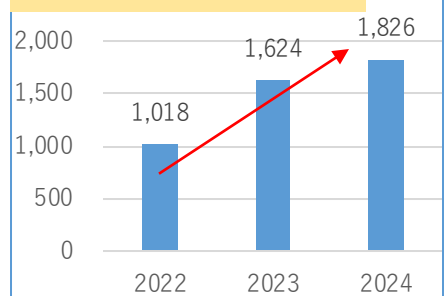
重点事業No.2 4 人材確保・育成支援（評価：C）

■ジョブセンターまえばしの主な取組

キャリアカウンセリングイメージ



■キャリアカウンセリング人数

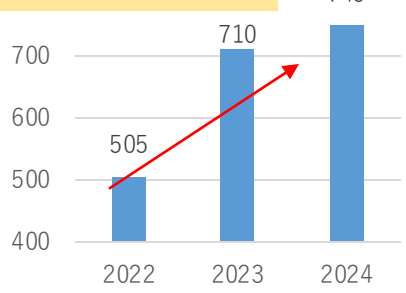


内容
■就職前の自己分析

就職支援講座イメージ



■セミナー参加人数

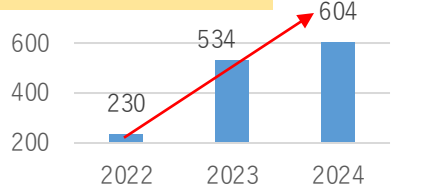


内容
就職準備支援
■パソコン講座
■再就職支援講座

定着支援講座チラシ



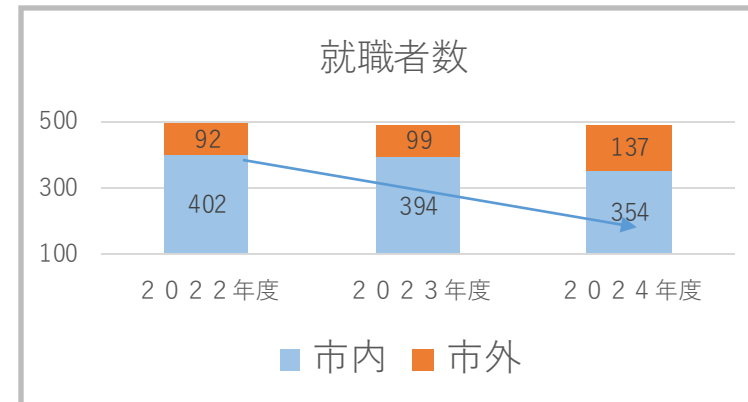
■講座参加人数



定着支援（交流）
■英会話講座
■ダンス講座

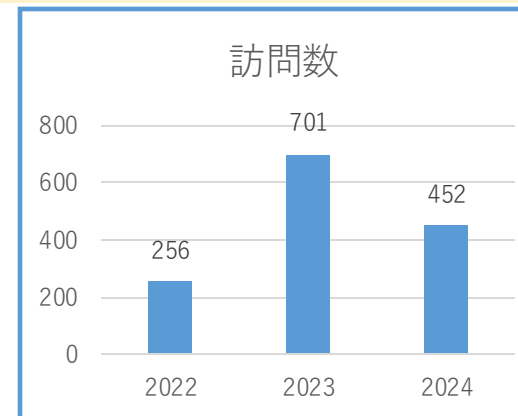
就職が困難な人のセーフティネットとして機能

■ジョブセンターまえばしの利用者の市内・市外就職者数



市内企業への
就職者は減少
傾向

■ジョブセンターでは企業アドバイザーの企業訪問を実施



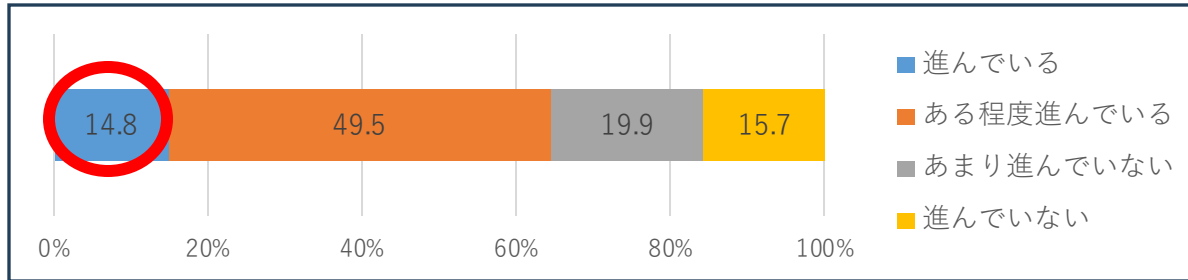
利用者の働きたい環境を
確認⇒企業訪問で就職者
の希望を企業にフィード
バックすることを検討

企業訪問による企業への働きたい環境整備への啓発強化が必要

第4章 活気あふれるまちづくり（産業振興）

重点事業No.2 5 女性が活躍しやすい環境づくり（評価：C）

市内企業へのアンケート結果
ワークライフバランスの浸透度



R6 前橋産業振興ビジョン資料編

市内企業のワークライフバランスの浸透度は低い



ワークライフバランスに取り組む上での課題（上位）

会社の労働条件の改善	27.7%
働き方についての社会の意識変化	27.1%
従業員の仕事や生活スタイルの変化	25.0%

企業へのライフワークバランスを啓発する取組



市内企業25社

■子育て企業合同説明会 男女共同参画パネル展示

■2024年度合同企業説明会、交流会を開催状況

○合同企業説明会

第1回：市内企業10社 参加者31人
第2回：市内企業25社 参加者61人

○子育て中の方と企業の交流会

第1回：市内企業3社 参加者11人
第2回：市内企業3社 参加者12人



限られた企業への啓発に留まっている状況

ライフワークバランスが整った職場環境の実現に向けて、企業に対するより効果的な取り組みが課題